世界かんがい施設遺産に4施設

十石堀や見沼代用水など

見沼通船堀で毎年行われる実演

農林水産省は4日、歴史的に価値のある農業用水施設を登録する「世界かんがい施設遺産」に茨城県北茨城市の「十石堀」など4施設が選ばれたと発表した。国内の登録はこれで計39施設となった。地味な印象は拭えないが、観光資源として活用する動きもある。

農水省によると、国際かんがい排水委員会（ICID、本部・ニューデリー）がインドネシア・バリで4日開いた国際執行理事会で決まった。

登録されたのは十石堀のほか、見沼代用水（埼玉県行田市、羽生市、加須市、鴻巣市、久喜市、桶川市、上尾市、蓮田市、白岡市、春日部市、さいたま市、越谷市、川口市、草加市、戸田市、伊奈町、宮代町）、倉安川・百間川かんがい排水施設群（岡山市）、菊池のかんがい用水群（熊本県菊池市）。

見沼代用水は利根川から取水し、県東部から南部の水田地帯を流れるかんがい用水。コメの収穫向上などのため、徳川吉宗の命を受けた「紀州流」の治水学者・井沢弥惣兵衛為永が築造し、1728年に完成した。

幹線延長は約80キロで、かんがい面積約1万ヘクタールの広大な農地に用水を提供する関東平野最大の農業用水といわれる。閘門（こうもん）を使って水位を調整する閘門式運河「通船堀」は歴史的・文化的価値が高いことから1982年に国指定史跡に。また、2006年には農水省の疏水百選にも登録されている。

世界かんがい施設遺産は建設から100年以上が経過したため池や水路、堰（せき）、古い水車などが対象。ICID国内委員会（事務局・農水省農村振興局整備部設計課）が5月に4施設を候補に選定していた。【内井高弘】

「3県連携で集客増を」

和歌山県　東京で観光説明会

和歌山県と県観光連盟は3日、東京都内で観光プロモーション説明会・交流会「和みわかやま東京レセプション2019」を開催。旅行会社、メディア関係者ら約300人が参加した。

和歌山の魅力を伝えるキャンペーンブック

第1部の説明会冒頭であいさつした中島寛和・県観光連盟専務理事（県観光局長）は「今年は『紀伊山地の霊場と参詣道』が世界遺産に登録されて15周年に当たる記念の年だ。奈良、三重との3県連携事業を実施して、集客増につなげていきたい」と各種施策を説明した。

主な記念事業として、金剛峰寺「奥殿」特別公開や、那智の滝のライトアップ、参詣道などでのウオークイベントが紹介された。また、送客への仕掛けとして、県内宿泊施設へ2泊以上する宿泊者を対象とした「10万円プレゼントキャンペーン」の実施や、一定の条件を満たした旅行商品に対する「15周年記念手ぬぐい」の協賛も行う。記念事業の実施期間は10月から来年3月末までの半年間。

説明会後半には、高野山金剛峰寺の宗務総長公室長の山口文章氏が「究極の聖地高野山～いま聖地が求められているもの～」と題して特別講演。欧米豪のインバウンド旅行者が多い近年の高野山訪問者の属性などを解説したほか、高野山に伝わる瞑想法「阿字観」をレクチャーした。

2部の交流会では県産食材（熊野牛、紀州うめぶた、紀州梅など）を使った料理や梅酒が用意されたほか、県内市町村のPRコーナーが設置され、参加者に和歌山の魅力をアピールした。

そのほか、世界遺産登録15周年を契機にさらなる魅力を発信するべく発足した「高野山・熊野を愛する100人の会」の設立が仁坂吉伸知事から発表され、同会の賛同メンバーを代表して、濱口道雄氏（ヤマサ醤油12代当主）、デューク更家氏（ウオーキングドクター）、夢枕獏氏（作家）らが登壇し、和歌山の魅力を述べた。

9月から観光プロモ

山梨県　秘仏の特別公開など

山梨県とやまなし観光推進機構、JR東日本八王子支社は9～11月の3カ月間にわたり、「富士の国やまなし～風林火山～」と題して、観光プロモーションを実施する。秘仏の特別公開や臨時列車の運行、ワインツーリズムなどを通して山梨の魅力をPR、誘客につなげる。

8月22日にはJR上野駅でオープニングセレモニーを開催。県内の中央線の各駅長が乗降客らにノベルティなどを配った。また、県産品の販売や観光をPRする「やまなし産直市」も実施した。

今年はこうふ開府500年に当たる。これを記念して9月14日から11月30日まで、甲斐善光寺の秘仏「峯薬師」を特別公開する。

山梨は約80社のワイナリーが集まる、日本を代表するワインの産地。そのワインを堪能してもらおうと、11月9～11日には「ワインツーリズムやまなし2019秋」を実施する。専用バスを循環させ、現地を散策しながらテイスティングできるようにする。11月16、17日には新酒ワインが勢ぞろいする「山梨ヌーボーまつり2019」が甲府市の小瀬スポーツ公園で開催される。

秘仏を特別公開する甲斐善光寺

石和や下部、富士河口湖など温泉地も充実しているが、びゅう旅行商品ではJRグループ協定旅館ホテル連盟山梨・多摩支部と連携し、10月1日～11月30日にJR＋宿泊コースで県内を訪れた人に、宿泊施設の館内利用券を1人500円分プレゼントする。

東京で観光大商談会

静岡県　春のDC　宿泊客は7％増

県文化・観光部観光交流局観光振興課の佐野博之課長＝写真＝は冒頭あいさつで、今年4月から6月末まで実施した静岡DC（デスティネーションキャンペーン）の結果数値について報告。県内104の観光施設等の入込客数が前年比110％（前々年比109％）で、県内127の宿泊施設の宿泊客数が前年比107％（前々年比108％）だったとし、「皆さまのご協力により、大きな成果をあげることができた」と感謝の言葉を述べた。

またJR東海営業本部観光開発グループの牧口哲也副長が「静岡DC振り返り　アフターキャンペーンに向けて」と題して、静岡DC期間におけるJR関連の旅行商品実績などを発表した。東海道新幹線を利用した旅行商品は前年比152％。内訳は、首都圏発が同148％、中部発が同124％、関西発が同171％とした。びゅう旅行商品については同109％とした。フリーきっぷの実績も報告。「ふじのくに家康公きっぷ」は前年比182％、「南伊豆フリー乗車券」は前年比111％だったと話した。

観光説明会では、静岡DC地域部会（伊豆・富士・中部・中東遠・西部）が、「静岡DCアフターキャンペーンに向けた商品企画のご案内」と題して、来年4月から6月末に実施されるアフターDCでの「イチオシ企画（旅行商品素材）」を細かく紹介した。

静岡県は4日、「ふじのくに　静岡観光大商談会　in東京」をハイアットリージェンシー東京で開いた。旅行会社やメディア関係者約160人が出席。県内施設・市町村団体からは約150人が出席し、観光説明会と個別商談会を実施した。

月あかり花回廊　節目の第10章に

鬼怒川・川治

栃木県の日光市観光協会によると、鬼怒川・川治温泉のイベント「月あかり花回廊」（9月28日～10月7日、鬼怒川公園内）が今年、節目の第10章を迎える。イベントは11回目だが、序章から始まったため、第10章となる。

幻想的であたたかな灯りと、自然と景観を大切にした花や草木を基調とした演出、野点、コンサートなどを用意して観光客を迎える。鬼怒川温泉街と会場を結ぶシャトルバスも運行される。

体験型観光が日本を変える〈135〉

体験教育企画社長　藤澤　安良

香港や韓国が政情不安定な時にあって、日本では台風13号と15号の影響もあり、停滞する線状降雨帯が全国各地で頻繁に大雨をもたらしている。その両台風の隙間を縫って9月7日、高知県四万十市で、全国各地から約50人が参加し、「全国ほんもの体験ネットワーク」と併せて「全国教育民泊協会」の総会が開催された。

教育旅行での民泊は1998年に南信州から始まった。20年の歳月を経て現在ではその教育効果の理解が進み、市場は生徒の減少が進行する中にあっても、広く学校で認められるようになり、とりわけ、私立の学校行事に、学校の存在価値や人間力向上を狙い教育民泊が増加しつつある。

昨年6月15日に施行された民泊新法の空き部屋貸しとは全く異なる理念や目的である。教育効果が高く、安心安全な受け入れ地を目指し、メンバー相互で情報交換を活発に行い、担い手やコーディネート組織の教育研修を実施。次代を担う青少年健全育成に貢献し、交流人口拡大や地域振興において重要な役割を担うことを目的にしている。

全国教育民泊協会

会議では課題と対策の情報共有として、①安全対策、危機管理、法令遵守の受け入れ態勢整備②増え続けるインバウンドの田舎への誘客推進と対応について③マーケットの動向（私立大規模校の拡大、新学習指導要領「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての提案、社会貢献プログラムのニーズへの対応、SDGsの教育現場への提案、キャリア教育、主権者教育など教育課題の解決のための提案）④企業研修やCSRのニーズは存在するが、企業研修会社も法人旅行会社も、体験教育の教育効果とその有効性が理解されていない。大きなビジネスチャンスであるが残念ながら旅行業界は気付いていない。受け入れ側からの企画提案が必要となる）⑤体験プログラムを一般客に売る手法⑥宿泊施設の目的提案として体験プログラムと宿泊を組み合わせた宿泊パックの推進⑦教育民泊の受け入れ家庭の拡大と、受け入れ頻度および受け入れ確率のアベレージ向上など4時間にわたって活発な議論が繰り広げられた。

会議の後の情報交換会では、地元の幡多広域観光協議会の会員である関係自治体の正副市町村長や観光関係部署などの参加があり、大いに盛り上がった。

体験型観光は人口減少が著しい地方にとって、交流人口拡大による経済効果と精神効果を得られる総合地域活性化産業であるとの認識で一致しており、参加者は成功事例やノウハウを学び、多くの課題に立ち向かう地域での活性化につなげる意欲と勇気を得る機会となった。

次回の総会と全国ほんもの体験フォーラムは来年3月20日から3日間の日程で長野県飯田市を中心に南信州広域で開催され、全国から千人を超える参加者が見込まれている。

地域観光

18年観光客は5634万人

福島県　震災前には届かず

福島県がこのほど発表した「観光客入込状況」によると、2018年は5633万6千人（前年比3・4％増）となり、東日本大震災後の最多を記録した。しかし、10年対比では98・5％の水準にとどまっている。

3方部では、中通りが2575万1千人（同6・1％増）、会津が1951万7千人（同1・5％増）、浜通りは1106万8千人（同0・5％増）で、いずれも前年より増加した。

種目別にみると、道の駅などを含む「その他」が1410万9千人（同15・7％増）で全体の25・1％を占め、次いで「スポーツ・レクリエーション」の1007万6千人（同0・5％増）、「歴史・文化」の935万人（同1・1％減）の順。

入込数の多い観光地ベスト3は、1位が磐梯高原（北塩原村）の213万人、2位あづま総合運動公園（福島市）179万人、3位スパリゾートハワイアンズ（いわき市）176万人。

種目別の「温泉・健康」のベスト3は、1位飯坂温泉（福島市）の82万3千人、2位磐梯熱海温泉（郡山市）73万5千人、3位東山温泉（会津若松市）55万2千人。

阿蘇の大自然とともに令和元年　未来永劫繁栄と皆様のお幸せを。　愛され続けるホテルをめざして
阿蘇の雄大な自然に囲まれた～阿蘇随一の景観を誇るホテルステイ～
ミシュラングリーンガイド・ジャパン　阿蘇山　2つ星★★
阿蘇地域　世界農業遺産　2013年　認定（GIAHS）
阿蘇ユネスコジオパーク　2014年　認定

阿蘇の司ビラパークホテル＆スパリゾート
tel 0967-34-0811　fax 0967-34-0816
〒869-2225 熊本県阿蘇市阿蘇温泉
阿蘇ビラ 検索
http://asovilla.jp

山の外輪山 清流が短時間で
発生する 清らかな水
大雨が、水を運び、土を通り、この川になる
ここは、清流球磨川
清らかな水の国 人吉

露天・大浴場「山並みの湯屋」
露天・大浴場「歳の湯殿」
竹明かりの足湯
和風空間を遊び 和の心を楽しむ
和遊和楽の宿

清流山水花 あゆの里
熊本県人吉市九日町30
TEL 0966-22-2171 FAX 0966-22-4015

2つの温泉を15の湯処で贅沢な温泉湯巡り

金刀比羅宮参道22段目に佇む温泉宿

世界遺産
「萩城下町」に佇む唯一の宿
萩城三の丸　北門屋敷
〒758-0057
山口県萩市堀内2-10-12
TEL　0838-22-7521
FAX　0838-25-8144
http://www.hokumon.co.jp/
世界遺産「明治日本の産業革命遺産」

萩城下町
松下村塾
恵美須ヶ鼻造船所跡
萩反射炉
当館表門前にも石碑がございます。

「薩摩路彩る定評の味」
ふと時間を忘れさせるような優しさに満ちた和みの宿。ロビーから眺める枯山水の庭園が心静かな時を醸し出している。
客室は純和風の趣を基調にベッドルームや特別室、和洋室も用意され、訪れる人を深いしじまへと誘う。
天然保湿成分が豊富な美肌の湯と言われる指宿温泉。
大浴場と露天風呂ではその醍醐味を源泉かけ流しで存分に楽しめる。湯宿の心配りを感じるのがバリアフリーの専用リビングを備えた湯浴み処で、和風の「桧」と洋風の「碧」は半露天の貸切風呂となっている。誰にも邪魔されずに気ままに楽しめる趣向である。
指宿名物の砂むし温泉を楽しむなら、砂むし会館「砂楽」までが徒歩3分の近くだ。
料理は「美味・滋味・香味の宿」と言われるだけあって、季節の食材を巧みな包丁技に托した秀水園でしか味わえない逸品が並ぶ。とっておきの美食を目当てに訪れるリピーターも多い。

いぶすき 秀水園
〒891-0406 鹿児島県指宿市湯の浜5丁目27-27
TEL 0993-23-4141　FAX 0993-24-4992
http://www.syusuien.co.jp

別府最大級の露天風呂と地獄蒸し料理を堪能できる
源泉掛け流しの宿

別府名物「地獄めぐり」
豊後水道の新鮮なお刺身や郷土料理「地獄蒸し」
さまざまのお風呂でたのしむことができる「美容泉」
情緒溢れる別府八湯鉄輪温泉おにやまホテル

別府鉄輪温泉
おにやまホテル
大分県別府温泉鉄輪 335-1
tel. 0977-66-1121